第 002 講 トピックセンテンスと段落の役割を確かめる

到達目標

- 段落の中心文を、位置ではなく前後の内容と照らして判断する。
- 中心文と支持情報を区別し、二つの段落の役割とつながりを読み取る。

読むときのルール

段落の中心となる内容を表す文を**トピックセンテンス**という。ただし、中心文は段落の最初にあるとは限らず、中心が一文ではっきり示されない段落もある。**文の位置ではなく、内容のつながり**で判断しよう。

中心文を探すときは、次の順に確かめる。

1. **段落全体を見る**。 何について、どのようなことを説明しているかをつかむ。
2. **候補とほかの文を比べる**。 ほかの文が候補の内容を説明したり、具体的な場面や仕組みを示したりしているか確認する。細かな出来事だけを述べる文は、中心文とは限らない。
3. **前後の段落と比べる**。 **段落の役割**とは、その段落が文章全体の中で果たす働きのことだ。単に「何の話か」で止めず、前の段落の内容を後の段落がどう進めているかを見る。

©ミライコーチング

本文

英文

Students sometimes leave small things behind during a busy school day. A water bottle may stay under a desk, and someone may forget a jacket in the gym. Another student often takes the lost item to the school office, but its owner may not know it is there. Some students check their classrooms first, and others ask friends about the missing things. Because they look in different places, getting these things back can take a long time.

One afternoon, a student brings a blue cap to the office. The next day, its owner still cannot find the cap. A picture board near the school entrance can help students find their lost things more easily. Office workers place photos of lost things on the board. Under each photo, they write the name of the room where students can get the item. Students pass the board on their way to class, so they can check it without making a special trip. When they recognize an item, they can go to that room and ask for it there.

語注：leave … behind＝置き忘れる ／ recognize＝見覚えがあるとわかる

問題

1

第 2 段落の中心文に当たる英文の**先頭 4 語**を、本文からそのまま抜き出しなさい。

2

第 1 段落は、落とし物が持ち主のもとへ戻ることについて、どのような状況を説明する役割を果たしているか。日本語で簡潔に答えなさい。

3

第 2 段落は、落とし物を見つけることについて、何を説明する役割を果たしているか。日本語で簡潔に答えなさい。

4

第 2 段落では、写真の下にどのような情報を書いているか。日本語で答えなさい。

5

第 1 段落と第 2 段落は、内容上どのようにつながっているか。日本語の一文で答えなさい。

©ミライコーチング

解答・解説

1

模範解答

A picture board near

第 2 段落の最初の文をそのまま中心文にするのではなく、**その文が後の説明をまとめているか**を比べる。

本文の部分	述べていること	段落での働き
初めの二文	青い帽子が事務室に届けられ、翌日も持ち主が見つけられない	一つの具体的な場面を示す
続く一文	写真の掲示板が、落とし物を見つけやすくする	段落全体に広く当てはまる中心の説明
後の四文	写真を載せ、受け取れる部屋を示し、通りがかりに確認して、見覚えのある物を受け取りに行く	掲示板が役立つ仕組みを具体的に示す

中心文に当たる英文は、次の一文だ。
A picture board near the school entrance can help students find their lost things more easily.
帽子の話だけでは、後に続く掲示板の使い方全体を説明できない。一方、この一文の「見つけやすくなる」という内容は、その後の具体的な仕組みとつながっている。
求められているのは英文全体ではなく**先頭 4 語**。先頭から数えると、① **A**　② **picture**　③ **board**　④ **near** となる。**near** は前置詞でも一つの語であり、次の **the** は 5 語目なので含めない。

ミライポイント！

中心文の候補を選んだら、残りの文がその内容を具体的に説明しているかを確かめる。

段落の冒頭だけを見るより、中心と支持情報の対応を調べるほうが確実だ。

2

模範解答

落とし物が事務室に届けられても、持ち主が別々の場所を探すため、手元に戻るまで時間がかかることがある状況を示す役割。

第 1 段落は、物を置き忘れる例から始まる。段落の役割をつかむには、**事務室に届けられた後も、なぜすぐに戻らないことがあるのか**を末尾まで追う必要がある。

本文の根拠	読み取れること
its owner may not know it is there	持ち主は、落とし物が事務室にあると**知らない場合がある**
Some students check their classrooms first, and others ask friends about the missing things.	教室を探す生徒も、友達に尋ねる生徒もいて、探す先がそろっていない
Because they look in different places, getting these things back can take a long time.	別々の場所を探すため、取り戻すまで**時間がかかることがある**

つまり、**届け先を知らない場合がある → 別々の場所を探す → 戻るまで時間がかかることがある**、というつながりだ。**may not know** と **can take** は可能性を述べているので、「持ち主は必ず知らない」「必ず時間がかかる」とは書かない。

「落とし物の話」は話題を挙げただけで、段落の役割を説明していない。「事務室へ届ける話」だけでも、その後の探しにくさと時間の問題が抜ける。**戻りにくい事情と、時間がかかることがあるという結果**を一文につなぐと、段落の役割を説明できる。

3

模範解答

写真の掲示板を使うと落とし物を見つけやすくなることと、その具体的な仕組みを説明する役割。

第 2 段落の中心文は、掲示板が**生徒の落とし物探しを助ける**と述べている。**can help students find their lost things more easily** の部分を確かめよう。その後の文を読むと、**何が掲示され、どう確認し、見つけた後にどうするか**が順にわかる。

後続の記述	中心文を支える内容
place photos of lost things on the board	写真で落とし物を確かめられる
write the name of the room where students can get the item	受け取れる部屋がわかる
pass the board on their way to class	授業へ向かう途中に掲示板を見られる
go to that room and ask for it there	見覚えのある物を見つけた後、受け取り先へ行ける

この四つは、掲示板が役立つという中心文の**具体的な仕組み**になっている。冒頭の帽子の出来事だけを説明しているわけではないため、段落の役割は「見つけやすくなること」と「その仕組み」の両方を含む表現にする。

4

模範解答

その落とし物を受け取れる部屋の名前。

根拠となる一文は次のとおりだ。

Under each photo, they write the name of the room where students can get the item.

- **Under each photo**：どこに書くか。写真の下。
- **the name of the room**：何を書くか。部屋の名前。
- **where students can get the item**：どんな部屋か。生徒がその品物を**受け取れる**部屋。

設問は「写真の下に**何を書くか**」を聞いている。したがって、答えは品物の名前でも、落とした部屋の名前でもなく、**受け取れる部屋の名前**となる。「品物を受け取れる場所（部屋）の名前」という言い換えでもよい。

5

模範解答

第 1 段落で落とし物を持ち主が見つけにくい事情を示し、第 2 段落でその探しにくさに対応する写真掲示板の仕組みを説明している。

ここで問われているのは、それぞれの段落を別々に説明することではなく、**後の段落が前の段落の内容にどう応えているか**だ。

第 1 段落で示された事情	第 2 段落で説明された対応方法
持ち主は落とし物が事務室にあると知らない場合がある	落とし物の写真を掲示して、確認できるようにする
生徒が別々の場所を探すため、取り戻すまで時間がかかることがある	受け取れる部屋の名前を示し、授業へ向かう途中にも掲示板を確認できるようにする

第 1 段落末尾の **getting these things back can take a long time** は**見つけにくい事情**を表し、第 2 段落の **can help students find their lost things more easily** は**それに対応する方法の働き**を示している。この二つを対応させて、「**第 1 段落で～を示し、第 2 段落で～を説明する**」という一文にまとめる。

「同じ落とし物の話」は共通する話題を述べただけだ。「帽子が届いた翌日の話」では、第 2 段落の一場面しか扱っていない。この本文では、前半の探しにくさを受けて後半で対応方法を示す、という関係まで書く必要がある。

ミライポイント！

段落間の関係を読むときは、共通する単語を探すだけで終えず、後の段落が前の段落の説明をどう進めたかを確かめる。「問題を示す→対応する方法を示す」は、その一つの形だ。

全文の構造分析

ここからは読解を助けるための構造の確認だ。S＝主語、V＝動詞、O＝目的語、C＝補語、M＝修飾語を表す。句・節の内部は S′・V′・O′・C′・M′ と区別する。〈 〉は名詞句・名詞節、〔 〕は形容詞句・形容詞節、( )は副詞句・副詞節を示す。

内側のプライム付き注釈は英文のすぐ下に、外側の文全体の注釈はその下段に示す。

役割色: S 主語 / V 動詞 / O 目的語 / C 補語 / M・その他 修飾等

Students(S) sometimes(M) leave(V) 〈small things〉(O) behind(V) (during a busy school day)(M).

〈A water bottle〉(S) may stay(V) (under a desk)(M), and someone(S) may forget(V) 〈a jacket〉(O)

(in the gym)(M). 〈Another student〉(S) often(M) takes(V) 〈the lost item〉(O) (to the school office)(M), but

〈its owner〉(S) may not know(V) 〈it(S′) is(V′) there(M′)〉(O). 〈Some students〉(S) check(V) 〈their classrooms〉(O) first(M),

and others(S) ask(V) friends(O) (about the missing things)(M). (Because they(S′) look(V′)

(in different places))(M′), 〈getting(V′) 〈these things〉(O′) back〉(V′)(S) can take(V) 〈a long time〉(O).

(One afternoon)(M), 〈a student〉(S) brings(V) 〈a blue cap〉(O) (to the office)(M). (The next day)(M),

〈its owner〉(S) still(M) cannot find(V) 〈the cap〉(O). 〈A picture board 〔near the school entrance〕〉(S)

can help(V) students(O) find(V′) 〈their lost things〉(O′)(C) (more easily)(M′). 〈Office workers〉(S) place(V)

〈photos 〔of lost things〕〉(O) (on the board)(M). (Under each photo)(M), they(S) write(V)

〈the name 〔of the room 〔where(M′) students(S′) can get(V′) 〈the item〉(O′)〕〕〉(O). Students(S) pass(V)

〈the board〉(O) (on their way 〔to class〕)(M), so they(S) can check(V) it(O) (without 〈making(V′)

〈a special trip〉〉(O′)(M)). (When they(S′) recognize(V′) 〈an item〉(O′)(M)), they(S) can go(V) (to that room)(M) and

ask for(V) it(O) there(M).

構造の補足

leave と behind は small things を挟んで「置き忘れる」を表す。一つの句動詞の V を二つの範囲に分けて示した。

know の後ろの it is there は、that が省略された目的語の名詞節。there は「事務室に」を表す。

getting と back は these things を挟んで「取り戻す」を表す。動名詞句全体が S で、その内部の V′を二つに分けた。

help＋O＋原形不定詞を、ここでは SVOC で示す。students は find の意味上の主語でもあるが、C の句には含めず、主節の O として示している。

where 以下は room を説明する関係副詞節。of の句はこの関係節も含み、name を修飾する。

making の意味上の動作主は they。to class は way の行き先を補う。

and の後ろでは主語 they と助動詞 can が共有される。ask for は「求める」のまとまりとして V に示す。

一文ずつの対訳

対訳

Students sometimes leave small things behind during a busy school day.
学校で慌ただしく過ごす一日の間に、生徒たちは小さな持ち物を置き忘れることがある。

対訳

A water bottle may stay under a desk, and someone may forget a jacket in the gym.
水筒が机の下に残っていることもあれば、体育館に上着を忘れる人もいる。

対訳

Another student often takes the lost item to the school office, but its owner may not know it is there.
別の生徒がその落とし物を学校の事務室へ持っていくことはよくあるが、持ち主はそれがそこにあると知らない場合がある。

対訳

Some students check their classrooms first, and others ask friends about the missing things.
まず自分の教室を探す生徒もいれば、なくした物について友達に尋ねる生徒もいる。

対訳

Because they look in different places, getting these things back can take a long time.
生徒たちはそれぞれ違う場所を探すので、そうした持ち物を取り戻すまでに長い時間がかかることがある。

対訳

One afternoon, a student brings a blue cap to the office.
ある日の午後、一人の生徒が青い帽子を事務室へ持っていく。

対訳

The next day, its owner still cannot find the cap.
翌日になっても、その帽子の持ち主はまだ帽子を見つけられない。

©ミライコーチング

対訳

A picture board near the school entrance can help students find their lost things more easily.
学校の入口近くにある写真を貼った掲示板は、生徒が自分のなくした物をより簡単に見つける助けになる。

対訳

Office workers place photos of lost things on the board.
事務室の職員は、落とし物の写真を掲示板に貼る。

対訳

Under each photo, they write the name of the room where students can get the item.
職員はそれぞれの写真の下に、その品物を受け取れる部屋の名前を書く。

対訳

Students pass the board on their way to class, so they can check it without making a special trip.
生徒たちは教室へ向かう途中でその掲示板の前を通るので、わざわざ足を運ばなくても掲示板を確認できる。

対訳

When they recognize an item, they can go to that room and ask for it there.
見覚えのある品物に気づいたら、その部屋へ行って、そこでその品物を返してもらえるよう頼むことができる。

©ミライコーチング